

# ブラジル 内田氏にシコ・メンチス 三井住銀 社会環境章

## 環境ビジネス拡大貢献が受賞理由

国連環境計画(UNEP)の傘下団体でもあるブラジル・シコ・メンチス協会の「2010年度

シコ・メンチス社会環境章授章式」が8月24日サンパウロ大学で行われ、同章にブラジル三井住友銀行地球環境部の内田肇氏が選ばれた。同章の個人部門を日本人が受賞するのは初めて。

協会の名前となっているシコ・メンチスは、1980年代にアマゾンの熱帯雨林の自然林保護を唱え、後に違法伐採業者に暗殺された人物の名前でブラジルの環境保護のシンボルと



シコ・メンチス章を受章した内田氏

なっている人物。同章は、毎年、地球環境・生物多様性・新エネルギー・温暖化防止、貧困の撲滅、社会格差の改善、ブラジルの持続可能な発展に貢献した法人・個人に対して授与される。

内田氏の受章は、排出権仲介のほか、国連への申請登録作業を行う環境コンサルト企業子会社を同行傘下に擁し、またブラジル社会経済開発銀行(BNDES)の環境ビジネスに対してアドバイザーを務めるなど、ブラジルでの社会環境活動が評価されたもの。

同章には内田氏のほか、法人部門においてはペトロブラス、オデブレッシユ、ゲルダウなど環境に優しい経営を図るブラジルの大手企業から、太陽光パネルを導入したオールグリーン電力ホテルを経営する地方ホテル、また小規模水力発電によるCDM(クリーン開発メカニズム)プロジェクトなど中小企業や、自治体保有のゴミ埋め立て処理場の近代化、都市下水網整備による汚水処理・地域衛生の改善に着手した各地の市町村などが表彰された。

授章式には次期大統領候補であるマリナ・シルバ氏のほか、ブラジル政財界の重鎮を含めた大勢の参加者で賑わった。

内田氏は、「ブラジルの地球環境保護のシンボルともなっているシコ・メンチスの冠のついた栄えある章を受章することが出来たのは、日本人駐在員としては、今まで紆余曲折しながら、出口が見えないような苦しいときでも情熱を以って一緒に挑戦してきた銀行の仲間、それにその日本人の言葉を信じてくれたブラジルの全ての人々と共有したい」と受章の喜びを語った。

ブラジル三井住友銀行は、2006年からブラジルの排出権を日本の需要者に供給する「排出権ビジネス」を邦銀として初めて着手。07年にはフィナンシャルタイムズとIFC(国際金融公社)が共催する「フィナンシャルタイムズ・サステナビリティ・バンキング・アワード」においてRunner-up(優秀賞)を受賞。

また昨年からは日本の環境機器技術のブラジル企業への移転紹介をテーマにした「環境ビジネススマッチングサミット」を開始。日本の小形風力発電や中型風力発電、薄膜式太陽光発電所、スマートグリッド(次世代送電線網)構築に必要な交流電力の逆流技術などのブラジル移転を進めており、その活動は隣国ウルグアイなど他の南米諸国へも広がっている。時折しも日本政府の「鳩山イニシアティブ」「クールアース計画」の趣旨にも沿った事業展開を進めている。